耐震基準小委員会　活動報告

委員長 :秋山充良（早稲田大学）
幹事長 :武田篤史（（株）大林組）
幹事　 :植村佳大（京都大学）
委員数 :40名

耐震基準小委員会のミッション

- 土木構造物の性能設計の普及
- 10年後を見通した社会基盤施設の地震安全性評価に関する基本的考え方を示す.
- 設計体系の再構成に関わる試行

６WG　①危機耐性WG（継続）
　　　②ISO23469対応WG（継続）
　　　③被害分析WG （継続）
　　　④断層変位WG（継続）
　　　⑤復旧性WG （継続）
　　　⑥地震本部との連携WG（２０２０年度で終了）

危機耐性WG

2020報告

- 構成員
  - 主査：本田利器（東大・主査）
  - 委員：高橋良和（京大）・野津厚（港空研）・秋山充良（早大）・片岡正次郎（国総研）・室野剛隆（鉄道総研）・武田篤史（大林組）

- 2020
  - ASCE-JSCEインフラレジリエンス委員会（委員長 小林潔司先生）との連携
    - 2021/4/13-30のシンポジウムに参画.
    - 2021/5/25 ASCEインフラレジリエンスフォーラムに参画

ISO23469対応WG

2020報告

- 構成員
  - 主査:野津厚(港空研)
  - 委員:一井康二(関西大学)・片岡正次郎 (国総研)・庄司学(筑波大学)
    飛田哲男(関西大学)・本田利器(東大・主査)・吉見雅行(産総研)
- 2020
  - ISO SR (Systematic Review) 投票に向けた意見集約.
  - 投票の実施.
  - 投票結果を受けての対応の協議.
  - Convenor候補の選出.

ISO23469対応WG

耐震基準小委員会「ISO23469対応WG」委員の募集について

WG主査（港湾空港技術研究所）野津　厚

ISO23469（地盤基礎構造物への地震作用）は井合先生がリーダーシップをとって2005年に制定されたもので，耐震分野における我が国発の国際標準としてたいへん貴重なものです．ISOにはSR(Systematic Review)という制度があり，継続の可否に関する5年に一度の投票が昨年行われました．日本は継続に投票しましたが，結果としてはそのまま継続する道は閉ざされてしまい，本企画を今後ISOとして存続させるためには，本企画の提案国である日本から改定作業を提案しなければならない状況です．そこで，今後，耐震基準小委員会「ISO23469対応WG」を中心に改定作業に取り組む方針としております．その際，ここ15年ほどの間に得られた新たな知見にも目を向けて，現在のISO23469に不足している情報については積極的に取り上げて行きたいと考えています．地震工学委員会の皆様の中で，こうした国際規格に係る活動に興味のある方はぜひ御参画いただければ幸いです．参加を希望される方は野津（nozu@p.mpat.go.jp）まで御連絡下さい．厳密な期限はありませんが7月末を目処に御連絡いただければと思います．

なお，ISO23469はISO　STORE（https://www.iso.org/standard/36873.html）から購入することができます．皆様におかれましてはWG参加の有無に関わらずぜひ御一読いただき，忌憚の無い御意見を上記までいただければと思います．

被害分析WG

主査：高橋良和（京都大学）

委員：今井隆（ビービーエム／ゴム支承協会　技術委員長）

篠原聖二（ 阪神高速道路）

橋本隆雄（国士舘大学）

服部匡洋（阪神高速道路技術センター）

廣瀬彰則（エイト日本技術開発）

検討状況：

- 被害分析の結果，構造部位ではなく構造全体系として落橋を防ぐ対策の事例が少ないことが明らかとなったため，熊本地震ほか，構造全体系による対策に関する良い事例を収集する。
- ASCE-JSCEインフラレジリエンス委員会（委員長 小林潔司先生）との連携において，阪神大震災を事例とする被害分析より，新構造技術の効果を検討。

断層変位WG

断層変位に対して危機耐性を確保するための方策、並びにその技術基準化を目指した調査研究を進める。

主査：片岡（国総研）　／作用・全体
酒井（法政大）　／作用
吉見（産総研）　／作用
山田（ニュージェック(株)）　／作用
鍋島（(株)長大）　／対策
松崎（防衛大）　／対策・照査
小野寺（鉄道総研）　／対策・照査
梶田（九州大）　／対策・照査
篠田（土木研）　／性能

R2年度はWGを10月に2回、11月に1回開催し、下記の審議を行った。

- WG報告書案
- 講習会計画

R3年度は報告書の出版、講習会の開催(11/15)をもって活動終了の予定。

断層変位WG

日時：令和3年11月15日（月）
場所：土木学会講堂（Web併用）またはWebのみ

スケジュール（調整中）

09:40-10:00 (20)	主旨説明	片岡主査（国総研）篠田委員（土研）
10:00-10:45 (45)	特別講演1（断層実験）	上田様（電中研）
10:45-11:30 (45)	活断層調査	吉見委員（産総研）
11:30-11:40 (10)	質疑応答	
12:40-13:00 (20)	地表面変動の評価	酒井委員（法政大）
13:00-13:20 (20)	断層歪裂帯の評価	吉見委員（産総研）
13:20-13:40 (20)	長周期パルスの評価	山田委員（ニュージェック）
13:40-14:00 (20)	構造物への影響評価1	梶田委員（九州大）
14:00-14:20 (20)	構造物への影響評価2	松崎委員（防衛大）
14:20-14:45 (25)	構造物への影響評価3	小野寺委員（鉄道総研）
14:45-14:55 (10)	質疑応答	
15:05-15:50 (45)	特別講演2（熊本復旧）	西田様（国総研）
15:50-16:15 (25)	対策法1	松崎委員（防衛大）
16:15-16:35 (20)	対策法2	小野寺委員（鉄道総研）
16:35-17:20 (45)	対策法3	鍋島委員（長大）
17:20-17:30 (10)	質疑応答	

復旧性WG

土木構造物，システムの復旧性についての分析・研究

2020年度活動報告

第1回（2020/9/2）：Zoom10名参加
　議事：シンポジウム，報告書について
　話題提供：
　　「補強土壁の補修復旧工事に関して」（栗林委員）
　　「震災時の高速道路盛土における一次復旧作業
　　　の整理分析」（日下委員）

第2回（2020/10/5）：Zoom10名参加
　議事：シンポジウム，報告書について

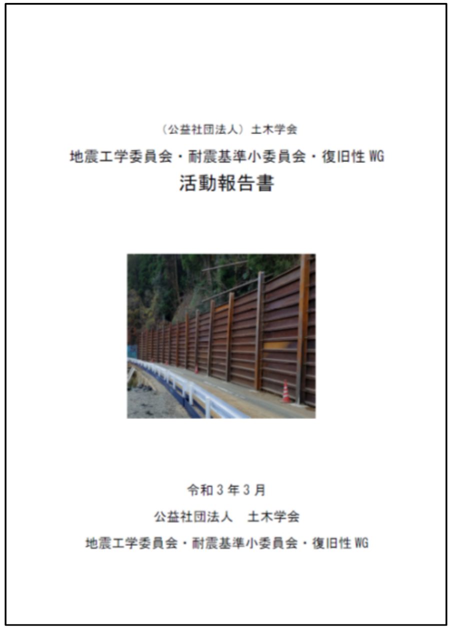
第3回（2020/12/23）：Zoom10名参加
　議事：シンポジウム，報告書について

「土木構造物の復旧性評価に関するシンポジウム」
（2021/3/2）：Zoom198名参加
　基調講演：「東日本大震災を経て、将来に備える」
　　池口正晃（国交省近畿地整・企画部長）
　シンポジウム講演：10編

2021年度活動計画

・2回程度を予定

主査：酒井久和（法政大学）
幹事：一井康二（関西大学）
委員：梶田幸秀（九州大学）
　　　栗林健太郎（エイト日本技術開発）
　　　後藤和満（橋梁プロテクト技術研究会）
　　　日下寛彦（NEXCO総研）
　　　橋本隆雄（国士舘大学）
　　　丸山喜久（千葉大学）



（公益社団法人）土木学会
地震工学委員会・耐震基準小委員会・復旧性 WG
活動報告書

令和３年３月
公益社団法人　土木学会
地震工学委員会・耐震基準小委員会・復旧性 WG

地震本部との連携WG

地震調査研究推進本部政策委員会総合部会に「工学及び社会科学分野との連携による成果の社会還元促進検討ワーキンググループ」が設置されたことを受け，土木学会地震工学委員会においてフォローのためのWGを新設

＃地震本部WGの目的:

「地震調査研究推進本部の様々な成果が工学や社会科学などの研究分野で一層活用され、社会への還元を促進するため、土木学会をはじめとする関係者と具体的な連携方策を議論する。」

野津　厚　様

拝啓　時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

野津様におかれましては、御多忙中にもかかわらず、地震調査研究推進本部政策委員会総合部会　工学及び社会科学分野との連携による成果の社会還元促進検討ワーキンググループ　委員として御協力を賜り、我が国の地震に関する調査研究の推進にあたって、種々貴重な御意見、御指導をいただき誠にありがとうございました。

今般、政策委員会各部会等の構成の変更に伴い、本ワーキンググループにおける審議も終了する運びとなりました。御在任中は、本ワーキンググループの御審議に多大な御尽力をいただきました。地震調査研究推進本部としましては、地震調査研究の一層の推進に全力を挙げて取り組んでまいる所存でございます。

野津様のこれまでの御協力に対しまして、重ねて感謝申し上げますとともに、委員の職をお離れになりましても、種々の機会に、御指導を賜りますようお願い申し上げ、御礼の御挨拶とさせていただきます。

敬具

令和二年十一月

文部科学省地震・防災研究課長

鎌田　俊彦

2020年度で活動終了